

第二回高校魅力化ワーキンググループ

H20年5月20日 9:00-12:00 知夫役場

熊谷 悟、崎 秀政、吉元 操、大場 尚樹、東 保、増本 邦雄、近藤 安子、竹谷 実、山岡雄一郎、岩本 悠、浜板 健一

1. アンケートを見ての感想と意見

- ・ 島外を志向する動機は「チャレンジ」で、島前高を志向する動機は「安心、安全」。それでも高校に入ってみると、やはり刺激や変化、競争を求めていることがアンケートから見える。島前高校にもチャレンジの要素があると中の生徒の満足度も高まり、生徒が集まるのでは。
- ・ 島前高の生徒の様子を海士は見えていて島前高の良さを知っているし、「地元」という意識がある。西の島や知夫からは島前高があまり見えないし、地元の意識が低い。
- ・ 海士の子も島外への希望があれだけ書かれているのに、今年度ほぼ全員が島前高に入ったのは異常と感じた。
- ・ 食堂や弁当より、給食という意見が多いのが驚き。2時間目で早弁して昼は購買で買っていた自分が高校生るときとは意識が違うのかも。
- ・ 昼食の準備より、朝食の準備のほうが大変では？
- ・ 昼食を子どもが自分でつくるとするのは良い。全部の日を給食にせず、給食ある日と無い日があっても良い。
- ・ 昼の休憩も短く感じてるようなので45分ぐらい欲しい
- ・ アンケートに平仮名で答えている中高生が多い。基礎学力の低さが課題。
- ・ 特進科の意見が結構多くでていた。学力・進学に対しての要望の強さが見える。
- ・ 学力を要望する声が多かったので、まずはそこをしっかりと保障するのが大事。
- ・ 今は加配をもらって英数国は二クラスでやっている。今の教員の数で特進のような対応は難しいと思う。
- ・ 高校の授業を見学した際、14-15人を一人の先生で教えるのも、大変つらいと感じた。免許がなくとも保護者でも地域の人でも、もう一人入ったら楽になると思う。
- ・ 「島前高校にしかいけない」という意識を変えていく必要がある。
- ・ 「誰でも行ける高校」という意識を変え、授業を良くしていくために、学力が低い生徒を落とすということをやっても良いのでは。
- ・ 保護者からすると島前高校はどんなに学力が低くても切らずに拾ってくれ、楽しく3年間を送らせてくれる高校。それが良さと感じる。
- ・ やりたい部活も、人間関係の変化も、刺激や競争なども生徒数が集まらないと解決が難しい問題。生徒を積極的に増やしていくのがやはり重要。
- ・ 外からも生徒を集めるのであれば、やはりレスリングのような形で部活が効果的だろう。
- ・ 松江高校と島前高が進学で勝負をするのは無理と感じている。松江農林は総合学科で成功した例だが、「出口」の保障ができているのが成功要因。出口を保障した何か特色のある学科をつくっていくのが良いのでは。

- ・ 公開授業にもっと保護者が集まるようになったら良いのに。
- ・ 「物理がない」というのを「化学もない」とか「理数系はダメ」といった風評につながっている。部活以外の取り組みももっとPRを。島外から来ている生徒の声なども出して欲しい。
- ・ 個別指導などやってることももっとPRしてほしい
- ・ 全国や県での比較や、島前高に入ってどれだけ生徒が伸びているかの情報を公開する
- ・ 今回のアンケートの結果なども保護者へ情報公開を。

2.高校からの説明

学習面

- ・ 生徒は素直だし、教員として働いていて本当に楽しい学校。ただ基礎学力の定着していない生徒多い。
- ・ 生徒の学力差は非常に大きい。学力差の開きは義務教育と変わらない状況。
- ・ 15人を一人で見ると大変。今は海士町から数学に一人サポートとして入ってもらっている。
- ・ 今の一年生は特に学力の差は大きい。ただ、意欲は高く、家庭学習時間は一番長い。これを伸ばしていきたい。
- ・ 県外から入った生徒が学習面でも雰囲気でも周囲に良い影響を与えている。寮も彼がきれい好きのためきれいになった。
- ・ 総合学科について、確かに松江農林は生徒の雰囲気も大きく変わった。ただ、島前高が「普通科」という看板を下ろして「総合学科」に変えると、「進学が弱くなる」という印象を与えてしまい、生徒が離れる可能性がある。また、「総合学科」にすると1.5倍ほどの教員配置になるが、現地で非常勤講師を調達する必要があるが出てくる。ここでは非常勤講師を調達することが難しいだろう。

質問：普通科を持ったまま、総合学科はできないのか？

回答：1クラスでこの生徒数では、難しいと思う。

部活面

- ・ 加入率高くほぼ100%。今の一年生は3名まだ入っていない生徒がいる。
- ・ 部員も少なく、遠征も大変という制約の中だが、生徒も先生もがんばっているし、活気がある。
- ・ 本命のレスリング部は施設も指導者も予算面も非常に恵まれた環境にあり、進学の出口もある程度保障されているにも関わらず生徒集めに苦労している（1年生2名）。生徒から見ると「しんどい」「危ない」というイメージで、横田のホッケーのようにしたいと思うが、島根県内にアピールしてもなかなか集まっていない。全国に募集をかけたらどうかはわからない。うまくPRをしていきたい。
- ・ HPは貧弱で更新されていないのが現状。浜板先生を中心にこれから変えていく。

3.今後の方向性案

- ・ インターンシップや他の学校・大学での学修を単位認定できる制度があるので、生徒の進路にあわせて、そうした課外での就業体験などを通して単位を得るクラスと、進学クラスで勉強するクラスに分けても良いかも。
- ・ 似たような境遇の中で学校運営協議会を導入し、地域と連携したキャリア教育の充実や人事の要望で進学実績を高め、地元からの入学率を高めている高校もある。(高知県立大方高校)
- ・ 海外や国内の他の高校との交換留学をできるようにする。寮に国際留学生が入ってくると、寮の活気が出て、寮を希望する生徒が増える事例もある。
- ・ 学力の低い子もしっかり面倒を見てくれる高校であってほしい
- ・ 地元に関心を持つ子どもを育てて欲しい
- ・ 地元に戻ってきたら、返却しなくてもいい奨学金制度のようなものを充実させても良いのでは。
- ・ 高大の連携の可能性を探ってみてはどうか。
- ・ 意志と能力があり島内の生徒に良い刺激を与えてくれるような県外からの入学者に奨学金を出してよいのでは。
- ・ 進路の出口をしっかり確立させることが重要。学力の高いところに入れるのと、どの子も必ずどこか満足するところに入れるようにする。
- ・ 30代以下で地元に戻って来てる子が多いので、その子達を取り込んでいくのが重要。
- ・ 出郷者に島前高校の魅力はまったく伝わっていないので、同窓会名簿を活用して、出郷者の子どもをこちらに帰してもらおうような働きかけが効果的。
- ・ 地元に戻りたいという生徒が増えてきている。島前高の生徒の作文を見ると「結婚して、ちゃんと収入があって、幸せな家族を持って、少し親孝行もしたい、それが地元でできれば良い」という価値観の子が多い。
- ・ 学力が高くなると都市へ流出するという過去のパターンは最近崩れてきている。学力高く優秀な子が帰ってきはじめています。
- ・ 切り捨てずに学力が低くても一人一人を大切にしてくれる島前高であってほしい
- ・ もっと高校の良さや取り組みをPRして欲しい。
- ・ 普通科を総合学科に変えるのではなく、インターンシップなどで地元にある産業に関われるようにする。
- ・ すぐに地元に戻る必要はないが、島前のために働ける人を育てて欲しい
- ・ 学力の低い生徒もキチッと育てて欲しい
- ・ 中高の連携を深めて欲しい。例えば高校の先生が中学校に出向いて授業をすとかして、子どもに魅力を伝えて欲しい。できれば中学生だけでなく保護者も参加できるような場をつくれたらよい。
- ・ 「学力をつけて都会で活躍する」のも悪いことではない。ただ生まれ故郷を好きで誇りに思ってくれていれば良い。
- ・ 教員は高い学力をつけるのが使命であり、高校魅力化から学力は外せない。例えば特進クラスをつくるとか検討する必要がある。
- ・ このワーキンググループで何か一つでもチャレンジや取り組みを作り出したい。